

(新潟県長岡市)で20日
28日に実施する。河川構
造物の維持管理に向け
て、コンクリートの損傷
や堆積状況を水中点検用
ロボットなどを使って調
べる。各ロボットが実際
の現場に適用できるか見
極めるのが狙いだ。
妙見堰での検証には、
いであや朝日航洋、みら
い建設工業など5社が応
募した六つのシステムが
用いられる。

12カ所で現場検証開始

インフラロボ

国交省 初弾は信濃川・妙見堰

国土交通省は、次世代インフラ用ロボットの導
入に向けて、20日から国
交省が管理する土木イン
フラや災害現場で現場検
証を開始する。インフラ
用ロボットの検証・評価
を実施するのは昨年度に
続き2回目で、民間企業
から応募のあった技術の
有用性などを評価するの
が目的。現場検証は12月
までに完了させ、評価結
果を踏まえ、来年度から
試行的な導入に移る。
インフラ用ロボットの
開発は「維持管理」(橋
梁、トンネル、水中ヘダ
ム・河川)の3分野と
「災害対応」(災害状況

調査と災害応急復旧の2
分野)を対象に14、15年
度で進めている。
本年度は国道の橋梁や
雲仙普賢岳(長崎県南島
原市)、天ヶ瀬ダム(京
都府宇治市)など12カ所
で実施する。地方自治体
からの協力を取り付け、
自治体が管理する橋梁で
も実施する。
初弾は信濃川の妙見堰

本年度は点検ロボットや
災害対応ロボットの公募
に71社から77技術の応募
があった。
橋梁やトンネルの維持
管理では近接目視や打音
検査をロボット技術で支

援するほか、点検者の移
動を助ける。災害状況調
査では土砂崩壊や火山災
害の被害状況を把握し、
トネルの崩落現場の場
合、崩落の規模などを人
に代わってロボットが調
査する。